

(6) 天然乾燥

特徴

木材を栈積み、または立て掛けるなどして自然に乾燥する方法です。最近では心持ち無背割り正角を、材面割れが発生しないよう乾燥するため、事前に高温セット処理を行ってから天然乾燥で所定の含水率に調節する方法や、天然乾燥の後処理として中低温の人工乾燥と組み合わせる方法も提案されていますが、これらを天然乾燥に含めるか否かは、意見の分れるところです。要するに人為的な工程を経ずに乾燥することが天然乾燥ですが、干割れ防止または抑制のために、木口やその周辺の側面などに割れ止め剤を塗布することもあり、天然乾燥の一部と考えるのが普通です。これに対して人為的な送風装置の導入などは、天然乾燥の範疇に入るかどうか、微妙なところです。

天然乾燥を行う場合に大切なこととして、栈積みの場所、方法および期間が挙げられます。乾燥土場は風通しを良くし、比較的断面の大きな栈木を用いて、適切に配置する必要があります。また、気候や風土に対応して、栈積みの頂部に屋根をかけるか否か、乾燥速度の調節のための栈木の寸法を適切に選択することが、質の高い天然乾燥材を生産する上で重要な要素となります。なお、計画的に良質な天然乾燥材を生産するためには、季節によって乾燥の進み方や干割れなどの発生状況が異なることを把握しておく必要があります。

長所

- 乾燥装置および燃料費は必要ありません。
- 材色変化が少なく、木材本来の色艶が損なわれません。

短所

- 乾燥の進み方は気象条件に左右され、一般に長い乾燥期間が必要です。
- 土地、原木代にかかる資金および金利などが必要となります。
- 到達する含水率は約15%が限度で、一般には20%程度までと考えられています。内装用材、家具用材、集成材ラミナなどは、さらに含水率を低くする必要があるため、仕上げの人工乾燥が不可欠と考えられます。



写真 天然乾燥風景（熊本県人吉市）

